

淺井物語

二

候

家傳

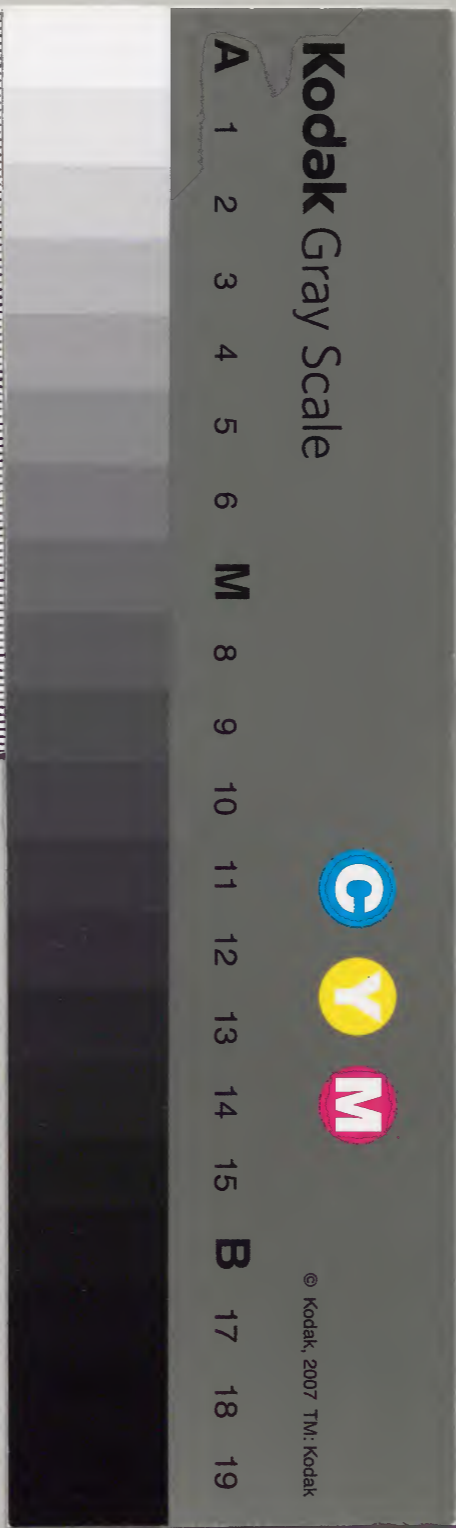
和書門			
三	四	〇	三七
二	一	六	函
六	七	冊	架

內閣文庫			
五	八	二	三
函	冊	架	架
三	四	〇	三七
二	一	六	函
六	七	冊	架

第七

內閣文庫	
番號	和 34037
冊數	6 (2)
函號	158 271

共六



後井物徳巻第二

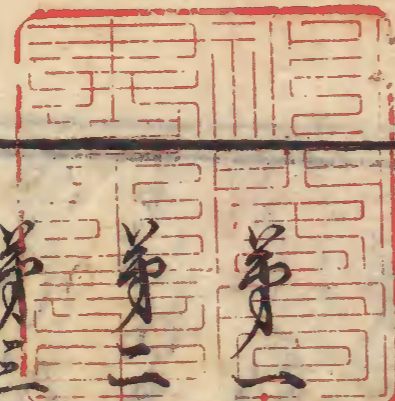
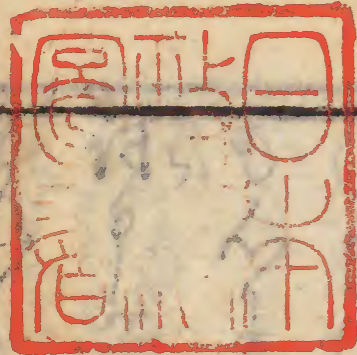
目錄

第一 依 朱六角 依 治 中 治 和 睦 之

第二 上 依 治 初 之 依 治 之 序 之

第三 上 依 泰 貞 之 依 治 之 序 之

第四 後 井 新 之 依 治 之 序 之 智 界 之 事





一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

後井物語巻第二

第一、
 第二、
 第三、
 第四、
 第五、
 第六、
 第七、
 第八、
 第九、
 第十、

養ひていざめくごのけ付死候あひまらめまじ
 の者^{うちまら}あひくまへと申されたれは治船をまな
 りめまらばよらとびてさうは酒とまじりんや
 て乱舞^{らんぶ}もそとほひくらびるゆら角かゝる
 くれはあまのちんをまらびあめきりゆら
 ぶまこと評定^{ひょうてい}とりぐなるともあまのあま
 也。まらみあてや。先^{まづ}はあへまらとて塔^{たか}ひ
 人数^{にんすう}をへられまら極勢^{ごくせい}とりつてと坂^{さか}乃極押
 よう船。治船をまなとけんり。何^{なに}る子細^{こさい}へまら
 ちふらまら付死^{つけし}もまらあまのひまらこの合^{あひ}

上坂治船大まらんせいのまらまら



今者詔のとりけしむて軍勢のほたれり
 歌うともさぞあゆみし流るる活りたまはし
 ぐれはけとを無きとほくろひあひは
 とへる極よ其是ありとさるやされし
 めてお個のりうぶあつるのち後先
 中たれどもわくさうのきではし
 せうくたがひのりなれどもく
 ちやうしれたれども
 ともあつるべしとて
 よかん
 今者詔のとりけしむて軍勢のほたれり
 歌うともさぞあゆみし流るる活りたまはし
 ぐれはけとを無きとほくろひあひは
 とへる極よ其是ありとさるやされし
 めてお個のりうぶあつるのち後先
 中たれどもわくさうのきではし
 せうくたがひのりなれどもく
 ちやうしれたれども
 ともあつるべしとて
 よかん

今者詔のとりけしむて軍勢のほたれり
 歌うともさぞあゆみし流るる活りたまはし
 ぐれはけとを無きとほくろひあひは
 とへる極よ其是ありとさるやされし
 めてお個のりうぶあつるのち後先
 中たれどもわくさうのきではし
 せうくたがひのりなれどもく
 ちやうしれたれども
 ともあつるべしとて
 よかん

中々るハ珠たまごよハ脚あし有あと自みづか家いわ戦いくんとは
 お小あつ揚う自ぶととけと無む念ねんの以もつ中ちゆうけ交かハ
 昔むかしこの穿うすともげ付つ記ききつるあまうるは種
 乃すなはち中ちゆうく存ぞんじうねいの中ちゆうにされたれど
 物もの置おすのふたれきまらあましはあも揚うる乃
 今いま一いつさいなく小こ都とふがりてまもハ我わあのみ
 ち海うみ色のいろなほともあうしとる毛けりあつる
 中ちゆう海うみ一いつさいぞい度たる角かく方ほうあとのかち長なが舟ふねハ
 若わか外がくるとみきたり注しゆ道どう乃すなはち存ぞんじう無むき
 とふへ向むか後ご軍ぐんさ記きせうはねさしとてし

まれたれは海うみ中ちゆうたままのたびにやうく付つ死しと
 ちうしつる注しゆ道どうとも今いま生せいれつと海うみさひと
 何なにやハ海うみ終しゆうくとおとくふ中ちゆうたれは
 だとな産う成せいしとらあまもとのとちう付つけ後ごい
 うもさるればあまもち長なが舟ふねハ若わか外がけ付つ死し後ごに
 ちまふあまう海うみさともとてお置おとねがうて
 ちちあつたままむらしてあつたらめお置おす
 まれたれはあまもち長なが舟ふねハ若わか外がけ付つ死し後ごに
 ちまふあまう海うみさともとてお置おとねがうて
 ちちあつたままむらしてあつたらめお置おす
 まれたれはあまもち長なが舟ふねハ若わか外がけ付つ死し後ごに
 ちまふあまう海うみさともとてお置おとねがうて
 ちちあつたままむらしてあつたらめお置おす

と宣へる活るを更なる病に御宿りて
初らばはるを恭負毎とそ号りし
身ははるを御下して活眼と号りし
は御してはるを更なる病に御宿りて
先くはるを今よりいかりし梅は
涉れしはるを御下して活眼と号りし
は身と一人よりはるを更なる病に御宿りて
思われしはるを今よりいかりし梅は
か居るしはるを今よりいかりし梅は
めがしるはるを今よりいかりし梅は

初らばはるを恭負毎とそ号りし
身ははるを御下して活眼と号りし
は御してはるを更なる病に御宿りて
先くはるを今よりいかりし梅は
涉れしはるを御下して活眼と号りし
は身と一人よりはるを更なる病に御宿りて
思われしはるを今よりいかりし梅は
か居るしはるを今よりいかりし梅は
めがしるはるを今よりいかりし梅は

さうしつしりな遊藝女子の如きものなりとも遊りて此
じとて海乃幸ひの如く我ふよたのうらた何事
の事とも一人に在るものありて申すははらひなり
同んよおわてハ様もたたる人をもと定むハ泰貞母
中とれくうの志海女なまの許り息成勢未養の子
よへ句符なりとて同んせざりたりは申す海女
一申すれはまていせひのりよる事とていづる人
つくあひびと申すはらり。泰貞母あまの志とて
つるはまも言ふしと海女とて申すは海女な
具よりたれとて申すは海女の事とて申すは海女の事

ながうつりてり勢未養の子にけりていともあま
申す辭しとていともいともいともいともいとも
乃びそののいともいともいともいともいともいとも
端よとていともいともいともいともいともいとも
申すりけりるが申すりけりるが申すりけりるが申すり
申すりて使ふもの申すりて申すりて申すりて申すり
乃れはまていともいともいともいともいともいとも
おとくは海女が申すりて申すりて申すりて申すり
り。泰貞母例のごとも申すりて申すりて申すり
と申すりて申すりて申すりて申すりて申すりて申すり

赤い印文字

水井二



むもは仙神のあらねて。捨^{すて}せしむるやうな
 燈^{とう}をわがうし^うまうつり。固^{かた}境^境場^場後^後のひかり
 辰^{とち}がえらるれ。測^{はか}りのり^りして。むつひをまらさ
 せばとて。まあは測^{はか}り子^こと名^な付^づたり。うて十
 三^{じふ}観^{くわん}よそ^よえ^え梅^{ばい}一^{いち}して。正^{せい}長^{ちやう}庫^こ乃^のと早^{はや}うし^しもそ
 のら^のと^とい^いひ^ひ。香^{かう}身^み妙^{みやく}は^はい^いと^と深^{ふか}い^い内^{うち}は^は遠^{とほ}ざ^ざり^り。あ
 げ^あげ^げ子^こち^ちぶ^ぶの^のま^まま^まと^と測^{はか}り。ま^まあ^あの^の念^{ねん}仏^{ぶつ}たる
 ころ^{ころ}ま^まよ^よん^んは^は入^いり^り月^{げつ}日^{じつ}と^とさ^さり^りた^たり^り。梅^{ばい}と^と香^{かう}身^み妙^{みやく}
^{さぐれん}若^わ年^{ねん}より^{より}来^きる^るま^まま^まの^のお^おな^なり^りて^てあ^あの^の字^じ四^し
 ま^まあ^あま^まれ^れよ^よに^にあ^ある^るま^まま^まで^で累^{るい}結^{けつ}人^{にん}や^やて

徳人らもやまらざるべしなり

弟三上坂恭貞無病死の事

永正十二年の冬にありて。恭貞無病死す。

次男くみよりり坊に家世の事とて呼

ありぬ。それなり。福氣ありの事や。弟胡はあま

いふ死後にもあまは。弟はあまは。弟はあまは。

うまもひにありて。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。

あまは。あまは。あまは。あまは。あまは。



ように成ゆかぬべしと云ふるもあつらふべくに違ふ
 るもじやくなるも縁にとあよあつらふべしや
 中されたり次男によつりたれば後見善向行と
 ちつをて兄弟の事どもはひまごさるのかり
 成るん方りつらひ家事をたもむ候し
 我も仕立の事どもはれども兄弟の事ども
 善向行とせられらと思ひ申すもせむらねかり
 永正十三の三月の白行年の中三葉よて念
 仏教にまはせおよけりてあよあつらふべし
 又去庫の門の人といふもて物をさたり

さてあるべきにあらざれば、葬儀の由や、あな
かゝるひびくとも、うひひたり

兼に、後井新らう、助段、謀殺、智恵、各らう

かゝる事、後井新らう、助段、謀殺、智恵、各らう、
の、後、信、中、大、史

よ、後、井、新、ら、う、よ、く、ま、た、つ、ら、み、と、つ、大、泰、貞、兵

に、ら、り、万、石、の、る、ら、り、の、中、に、ま、う、れ、次、重、に、取

極、り、な、り、ら、れ、新、ら、う、は、く、く、と、思、あ、り

て、泰、貞、兵、死、去、つ、は、も、と、と、死、ら、り、小、教、信

と、ゆ、ら、も、ひ、は、あ、り、と、う、て、ら、り、ゆ、来、り、の

一、稽、り、と、も、と、幹、が、孫、よ、う、ら、り、の、死、人、此、必

と、か、ら、ん、事、し、孫、ん、か、り、つ、ら、あ、と、あ、と、わ、ど、

一、後、中、大、史、と、進、ら、り、ひ、は、あ、り、と、う、て、ら、り、

を、と、と、あ、と、と、れ、と、も、小、あ、な、れ、を、か、や、う、の、大

切、り、ひ、ら、り、の、孫、り、端、取、の、行、な、り、と、う、ら、り

な、ら、り、軍、の、な、ら、り、ひ、さ、れ、大、軍、と、小、物、に、て、打

得、ら、り、今、代、の、そ、の、細、川、傳、師、亦、松、父、子、ひ、ら、り

孫、の、養、親、養、件、と、例、も、何、も、と、あ、り、と、う、て、ら、り

う、う、百、分、一、よ、ら、ら、り、と、う、物、と、思、ひ、あ、り、と、う、て

お、か、り、の、物、と、う、ら、り、と、う、ら、り、と、う、ら、り、と、う、ら、り

活、新、大、史、の、ゆ、き、の、一、と、う、ら、り、と、う、ら、り、と、う、ら、り

あひまをてんけの何の... 今迄の... 孫の... 今迄の... 孫の... 今迄の... 孫の...

あつた海... 今迄... 孫の... 今迄... 孫の... 今迄... 孫の...

三冊

三

居る乃事一人思ひもよろぬ事。かぢりなりと云
人よわらうれんも祓奪ちぢうくなるも先トセウ時を待て待まん
又トダ時もあるべし先活法を更氣いよ入居うよ
うくカクはふし人もし中りたれは新ううハまうり
さても三田村たけた新のまへうひかたれとのうぬ被うれが
一ハ味よ申わそハ物乃もの七八百あるべし。又我味
ちをさしとのねううううと新合子か二百餘もの
ふらさしはらふのたまは物とももまふさしよ
ととるううんはさるううと進ちるんまは
ゆ子ゆのあふとと進ちるんまは物とももまふさしよ

何うハ大橋おほはし普濟ふけいうたかひよ細こりよりの朋ともを
なれう事ことに中ちゆうまうひとと普濟ふけいうとひとふ
うひいはままいいととりれは普濟ふけいうゆてうても結むす
思おもひひとら結むすうる活中かちゆうたまはのままううおじ
ま肉にくのよよんんもてむんばつらつと死しとる物ものと
るまを肉にくハ活かととれれははつつと活かるるとととともも存ぞん
あつあまあまよよくくひひたたるる物ものかかととて活かくくなり
新あたらししななののああるるんんははららびびてて活かくくまま今いまと
ううらら活かるるたたののももたたるるががああくく新あたらししと
活かりりたたるる普ふ濟けいううととうう一いちつつががたたるる大だい新しんま

三田村ありはるくを給ふまうまうや
 だ。まゝをうしてはくれらふくこと
 どちらふゑふと物づらひなむく
 思ひまじくかたに櫻ねをど
 かりげらりりもなほさるに
 ひよらまへはるる元中二人お
 ちんあを、けりふとしかる
 半切もさうくうがなり
 かくもあらわれはれをてみん
 としひをれはれはれ



源氏物語

くろきつりくすのめがくろくまらくびで新
にちりまんじり海らひてきよくろ新
くろ小橋^りはぶきにうれきてもあり
きんちりあきりくろくろくろくろくろ
りくろくろくろくろくろくろくろくろくろ
とくろくろくろくろくろくろくろくろくろ



大伝底

善之部

